

第28回 SRお客様交流会

2019年3月14日(木) 大田区産業プラザPiO

食肉文化を担うニッポンハムグループ 車両1,360両にSRを一斉導入した理由

日本ハム株式会社 様

- 所在地: 大阪市北区梅田二丁目4番9号 プリーゼタワー
- 設立: 1949年5月30日
- 代表者: 代表取締役社長 畑 佳秀
- 事業内容: 肉製品製造業・食肉卸売業

SR導入 SRConnect 1,360台
※ 2018年9月末現在



フード・物流事業部事業管理室
事業管理課マネージャー
永島田 充成



これが我が社のSR導入効果

現場から安全運転意識が芽生え
事故・違反の抑止力になった

食肉生産拠点から 新鮮でおいしいお肉を全国へ配送

弊社は、全国に食肉生産拠点をもち、その内訳は、自社農場122カ所、預託・委任農場201カ所、食肉処理工場20カ所になります。グループのフード会社は、「大麦牛」「桜姫」「麦小町」など国内外の食肉を扱っています(写真1)。一般精肉店や卸売業、製造業、外食店、スーパー、コンビニエンスストア、ネット販売業など、様々な業種のお客様へ東日本フード、関東日本フード、中日本フード、西日本フードの4社113営業拠点を介して販売しています。



写真1 フード会社が配送を担う、「大麦牛(オーストラリア産、写真左)」「麦小町(国産豚肉、写真中)」「桜姫(国産鶏肉、写真右)」



図1 数あるドラレコやデジタコからSRを選んだ理由は、ドライバー不足の昨今、より安心して社員が働ける環境づくりのためでもある



写真2 トラックのダッシュボードに組み込まれた『SRConnect』。関東日本フード川崎営業部の車両

事故・違反0(ゼロ)をめざす!! 簡単に安全指導ができるSRを選定

4社で約1,600両もの車両を日常的に利用するため、事故や違反の数もなかなか減りませんでした。そこで「事故撲滅+コストダウン+温暖化対策」を図り、ドライバー、人命、その家族に安心感を持たせることを目的として、数あるドラレコから最終的にSRを採用(図1、写真2)。その理由は、「①操作・運用が簡単」「②運転の癖がわかる」「③明確な安全運転指導が可能」「④映像による危険挙動の振り返り」「⑤SR得点競争による、ドライバーのやる気喚起」「⑥バック診断」などでした(図2)。

図2 運輸日報は、SR得点や危険運転、注意運転の件数①、速度、高速区間、走行距離②ほか、訪問件数や訪問順序、出発・到着時刻③の情報も記録

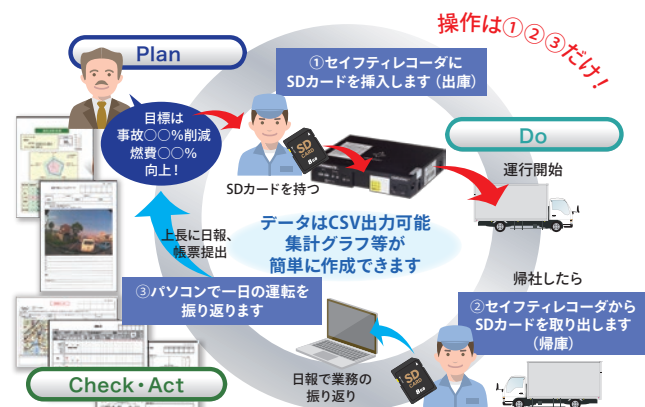


図3 SRConnect 運用概念図

全国の管理者とドライバーから反響続々 運転の見える化で安全意識は育まれる

2018年7月、全国の営業車両1,360両にSR導入したところ、全国の営業責任者から、「ドライバーが（運転を）見られている、という意識を持った」「運転の見える化で数値による客観的な指導ができる」「運転の癖が改善でき、安全運転意識が向上」「訪問した得意先、時刻、滞在時間がわかり、納品した数量などとの相関関係を確認可能に」などの導入効果が得られました。ドライバー側から点数アップをめざすようになり、自然に安全運転意識も向上しました。

食肉配送の安全と安心はもちろん さらなる業務効率の向上を狙う!!

現在、セールス・ドライバーが持つ携帯端末では、納品や販売、伝票発行などの情報を管理しています。このデータと、SRデータを今期中に紐付けたい。これにより、伝票発行時間、駐停車時間、売り上げなどの情報と比較・検証が図れ、運輸日報とSRデータとの一元化が可能になります。数値やデータに基づいた安全運転指導と、車両動態記録、勤怠管理などを実施しつつ、事故・違反撲滅を徹底し、業務効率化をめざします。

みるみるうちに現場が変わった!!

関東日本フード株式会社様 管理者・ドライバー SRインタビュー

ニッポンハム
グループ

■ 埼玉営業部 部長・巖崎 様

SR導入で、ドライバーが車間距離を十分に取るようになりました。極端にSR得点が低い人には、データを基に本人と対面で指導・確認しています。例えば、ドライバーにより一時停止の考え方や、方法も異なるので、指導書が出たら「リーダー→私」の順で対面で話し合います。SR映像は駐車時の「ぶつけた、ぶつけない」のトラブル時の証拠になり、ドライバーを守ることができます。



■ 埼玉営業部 セールスドライバー・神宮寺 様

事故やトラブル発生時の証拠としても、SRが導入されて良かった。また導入後、道路の状況や、標識、信号などにより一層注意を向けるようになり、無闇な急発進や急加速もなくなりました。



■ 埼玉営業部 セールスドライバー・神田 様

SRで車間距離不足がわかり、車間を取るようになった。自分の感覚や経験ではなく、数字と映像によって「自身の運転が見える化」されることで、安全運転の意識が高まり、技術も向上しました。



■ 埼玉営業部 セールスドライバー・岸上 様

常時カメラ撮影と運転の点数化で、自分の運転操作とともに道路や周囲の状況に気を配れるようになり、安全運転を心掛けるようになった。SRで自分の運転の癖がわかり、得点アップについても同僚との対話が増えました。



業務効率・安全対策 最新情報

JVCケンウッドとの連携でSRがより便利に!! 関連製品や新機能が続々登場

株式会社データ・テックは、同社製の『SRPocket II』と株式会社JVCケンウッド製のドライブレコーダー『STZ-DR01』との連携商品の発売を開始する(図1)。

車載と光学映像技術に定評のあるJVCケンウッドとSRの安全運転診断のノウハウ、強みを融合させ、昼夜を問わず高精彩で鮮明な車内外の運転映像を基に安全運転指導が行えます。また、**データ・テックでは、JVCケンウッド製の高精度ドライブレコーダー「DRV」シリーズの取り扱いを開始**、物流・運輸業界の幅広いニーズに応えられるよう、製



最新機種『SRPocket II』

品ラインナップの拡充を図っていきます。またデータ・テックは、バック時の回数や速度、距離などを記録する「バック診断」機能(図2)や、**約20種類の音声で走行時の注意喚起やSDカード操作の警告を促す「音声アナウンス」機能**を新たに追加。さらにJVCケンウッドは、同社のウェアラブルワイヤレススピーカー「CAX-NS1BT」シリーズを、配送・運輸業務のドライバーの車載スピーカーとして新提案(写真1)。株式会社菱和からは、SRに連動可能な後方確認カメラ『カービジョン(写真2)』と『ETC2.0車載器』を紹介した。

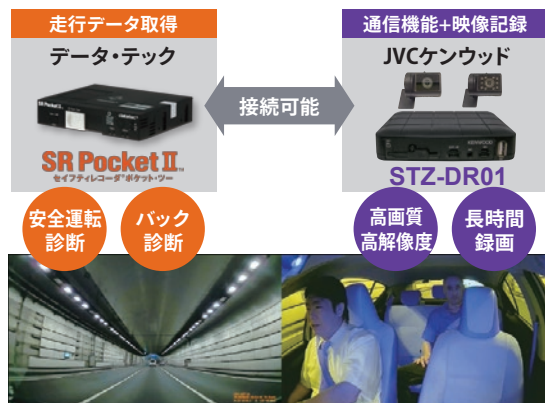


図1 JVCケンウッド製ドライブレコーダーとSRの構成図(上)。同社の光学技術と赤外線カメラにより高精細な暗所撮影が可能(下)

時	地点	最大速度 (km/h)	平均速度 (km/h)	距離 (m)	バック診断
18:25:10	埼玉県浦和市中央	2.8	2.7	18.5	○
18:25:16	埼玉県浦和市中央	2.8	1.9	9.5	○
18:25:20	埼玉県浦和市中央	2.8	2.2	9.5	○
18:25:28	埼玉県浦和市中央	2.8	1.5	6.5	○
18:25:40	埼玉県浦和市中央	2.8	2.4	12.5	○
18:25:51	埼玉県浦和市中央	2.8	1.7	10.5	○
18:26:04	埼玉県浦和市中央	2.8	2.3	7.5	○
18:27:28	埼玉県浦和市中央	2.7	2.2	12.5	×
18:28:18	埼玉県浦和市中央	2.7	2.2	12.5	×
18:28:54	埼玉県浦和市中央	2.7	2.2	12.5	×
18:29:14	埼玉県浦和市中央	2.7	2.2	12.5	×
18:29:31	埼玉県浦和市中央	2.7	2.2	12.5	×
18:29:32	埼玉県浦和市中央	2.7	2.2	12.5	×

図2 バックギアに入れた後、3秒以上の周囲確認を実施しているかをチェックする機能もある



写真1 音楽用途だけでなく、音声認識と併用することで、業務車両用スピーカーとして応用用途の拡がりをめざす

写真2 菱和製の『カービジョン』

SRVideoからSRConnectへ入れ替え バック事故撲滅の新たな課題解決へ

北三運輸株式会社 様

- 所在地：埼玉県さいたま市浦和区瀬ヶ崎四丁目31番20号
- 設立：1973年11月20日
- 代表者：代表取締役社長 三浦一晃
- 事業内容：一般貨物自動車運送事業、第一種利用運送事業、前項に付帯または関連する事業

SR導入 SRConnect 60台



財務部/人事総務部 課長
畠山 政勇

これが我が社のSR導入効果

現場から安全運転意識が芽生え
事故・違反の抑止力になった

複数枚にわたる帳票を1枚に集約 運送会社の“現場の声”を具現化

2006年8月に車両69両に『SRVideo』を初導入。その後、大きな加害事故が減り、燃費も大幅に削減され、その導入費用分※を燃費向上等で賄う(回収する)ことができました(図1)。2016年7月、さらなる業務効率化と安全輸送の強化をめざし、SRを含む4社から代替機を選定したところ、『SRConnect』に決定。理由は、「①安全運転診断」「②デジタコ」「③バック事故対策」の3点でした。SRConnectになり、前方と車内にカメラ2台が搭載され、事故状況とドライバーの挙動が比較可能になり、事故の分析に大いに役立ちました(写真1)。当初は、SR得点が80点以上のドライバーが全体の10%でしたが、約半年後には55%となり、現在は88%に向上(図2、3)。

※減価償却分

導入の効果

1. 損害賠償を要する大きな加害事故が激減
2. 燃費が約**4.5%**向上し、
約**370万円**※の大幅な燃費削減効果

※ 燃費が全社平均で3.86から4.04km/ℓへ約4.5%も向上。約37,000ℓ/年のガソリン代節約を達成。削減費は約370万円(100円/ℓで換算)で、同社のSR導入初期コスト(減価償却分)を、燃費向上等で回収できた計算となる

図1 2006年、SR初導入時の効果。安全効果、燃費効果ともに向上した



写真1 『SRVideo』から『SRConnect』に代わり、室内のカメラが追加され車内の様子が録画できるようになり、事故の原因特定に役立ったという。助手席のダッシュボード上にあるのが、SRConnect

管理者からドライバーへの「地道な声かけ」もマンネリ化解消に有効であると改めて実感。このような、わずかな変化に気づき、工夫することでマンネリ化が解消され、得点アップを図れます。

管理者はドライバーに対し、「広い心で見守る度量」が必要。「慌てても、店着時間は大幅に変わらない」「クレーム処理は心配するな」と、ドライバーへきちんと伝えることで、運転業務に余裕ができています。管理者は、「急に得点が悪くなった」「危険挙動が発生」などを見逃さず、すぐに声をかけてヒアリングすることです。

今後は、バック診断のデータを活用してバック事故予防に注力していきたい(図4)。SRのバック事故の予防機能で記録したデータを基に、バック運転の社内ルール化(バック前に3秒以上完全停止しての後方・安全確認など)やKYTなど事故防止に注力していきたいです。

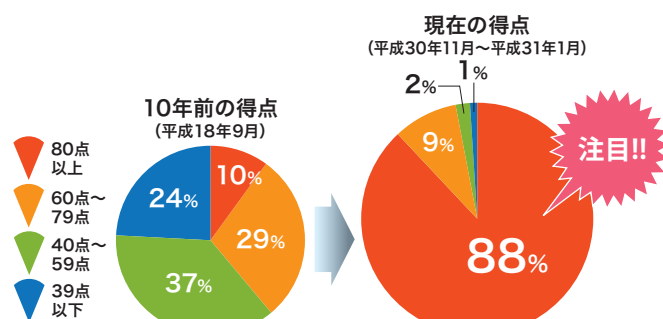


図2 10年前のSR得点推移と、現在の得点。全営業所の平均点が、11月から1月の繁忙期なのに、80点以上が88%以上になった。



グループワーク ①



10枚の新聞紙を使い、グループごとに高さを競い合うもので、グループの結束力やチームワーク力を高めることが目的だ。
1位は、2m40cmという結果だった(写真上)

グループワーク ②



道路交通事故の55%が、交差点で発生する(警察庁調査)。①②のKYT映像を見て、グループごとに「起こりうる危険」と「運転上の注意」について、ご意見をいただいた。

① T字路の交差点 左折時のKYT (写真1)

起こりうる危険

「追突」「後方左からのすり抜け」「死角から二輪の飛び出し」「歩行者横断」「対向車の右折」

運転上の注意点

まずは徐行すること。左折時は、左ミラーで後方を確認し、巻き込みに気をつけながら対向車線に合流。

直前の車両との車間距離が取れていないため、その結果、急制動をかけることになった。あらゆる状況に備えられるように、十分な車間距離を常に確保しておきたい。

データ・テックからのアドバイス



写真1 比較的通視性が良く、幅員が広い道路だが、交差点で対面の右折車が割り込んできて、直前の車両が急ブレーキを踏んだ

② 見通しの良い県道を直進後、横断歩道前のKYT (写真2)

起こりうる危険

「横断歩道での人と車の飛び出し」「後方からの無理な追い越し」「ドライバーのいねむり」

運転上の注意点

横断歩道の前は、かならず一時停止する。見通しの良さに油断せず、周囲の状況に気を配る。

信号のない単調な道は、ドライバーの意識が向きにくい。速度を落とし、周囲の状況にも危険予測を怠らない。建物など左からの不注意な車両の侵入も意識しておく。

データ・テックからのアドバイス



写真2 直線路で単調なため、油断しやすい状況。左側から完全に一時停止していたはずの車両が、いきなり飛び出てきた

グループワーク ③

「プロドライバーとは?」「プロドライバーをどうやって育てるか?」「今後ドラレコはどのように発展するか?」「SRに求められる新機能は?」についてご意見をいただいた。

■ プロドライバーとは?

- ・常に安全第一を心がける
- ・運転だけでなく、健康と自己管理ができる
- ・運転以外にもハウレンソウ(報告・連絡・相談)できる
- ・常に自己改善に取り組み、笑顔でたやさず、顧客満足度が高い
- ・法令を遵守し、安全運転を通じて自身と人命が守れる

■ プロドライバーをどうやって育てるか?

- ・教育の仕組みづくりと、それを実行し継続する
- ・社員間での意見交換できる環境をつくる
- ・事業所間でのSR得点を競い合う褒賞制度
- ・SRのような安全運転診断装置、ドラレコなどを使う
- ・SR映像などを使い、具体的でわかりやすいKYTを実施

■ 今後ドラレコはどのように発展するか?

- ・管理者側からドライバーをリアルタイム・モニタリング
- ・クラウドサーバでのSR映像の共有化
- ・危険予測マップ作成や、居眠り検知、駐禁時の警告機能など
- ・AIによる走行映像解析や危険予測
- ・異なるメーカー同士のドラレコとの相互通信機能

■ SRに求められる新機能は?

- ・居眠りや追突防止、シートベルト着用など検知機能
- ・車両の動態管理とSR運用の一体化
- ・引き続き、褒める指導ができる新たな指標ができること
- ・車内に搭載される複数の車載器で、その中核に位置づけられる機器になってほしい



第29回 SRお客様交流会

2019年 9月6日(金) 東京・大田区産業プラザPiO

その他、イベント、セミナーの詳細は、
弊社ホームページにアクセス!!

URL: www.datatec.co.jp

株式会社 データ・テック

〒144-0051 東京都大田区西蒲田7-37-10 グリーンプレイス蒲田11階
TEL.03-5703-7060 FAX.03-5703-7063
<http://www.datatec.co.jp>

2019©株式会社データ・テック

SRNEWS_VOL.72 1905C30-(0)